

## 技術評価報告書

申込者：株式会社小財スチール 代表取締役 小齊 至  
福岡市中央区薬院三丁目 3 番 33 号  
(本技術の開発は、昭和産業株式会社との共同で行われたものである。)

技術名称： SK-DC Joint 工法 ー溶接鉄筋ユニットを用いた基礎梁せん断補強筋工法ー

当法人「建築構造技術審議委員会」において慎重審議の結果、平成 23 年 8 月 5 日付けの技術評価書(SABTEC 評価 11-02)の通り、一般社団法人建築構造技術支援機構「建築構造技術検証要綱」で定めた技術基準と照らし合わせ、本技術は妥当なものであると判断されたことを報告する。

2011 年 8 月 5 日

一般社団法人  
建築構造技術支援機構  
代表理事 益尾 潔

### 建築構造技術審議委員会

委員長	窪田敏行	近畿大学	名誉教授
委員	岸本一蔵	近畿大学建築学部建築学科	教授
〃	菅野俊介	広島大学	名誉教授
〃	田才 晃	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院	教授
〃	中塚 侑	大阪工業大学工学部空間デザイン学科	特任教授
〃	三谷 勲	神戸大学	名誉教授

### SK-DC Joint 工法 専門部会

主査	窪田敏行	近畿大学	名誉教授
委員	中塚 侑	大阪工業大学工学部空間デザイン学科	特任教授



## 技術評価書

申込者：株式会社小財スチール 代表取締役 小齊 至  
福岡市中央区薬院三丁目 3 番 33 号

(本技術の開発は、昭和産業株式会社との共同で行われたものである。)

技術名称：SK-DC Joint 工法 ー溶接鉄筋ユニットを用いた基礎梁せん断補強筋工法ー

技術概要： 本技術は、新開発の電気抵抗スポット溶接によって製造した溶接鉄筋ユニットを用いた基礎梁せん断補強筋工法である。

従来、基礎梁は、断面寸法が大きいため、せん断補強筋の現場施工に手間が掛かる。たとえば、基礎梁せいが高いと、中間部に 180° フック付き重ね継手とすることが多い。本工法で用いる溶接鉄筋ユニットは、上下の折曲げユニットと中間部のパネル状ユニットで構成される。両ユニットともに、せん断補強筋と直交筋からなる。本工法では、新開発の電気抵抗スポット溶接によって、せん断補強筋の両端部に直交筋を接合し、これらの直交筋を組み合わせて重ね継手(以下、直交筋付き重ね継手と呼ぶ)とし、直交筋の定着効果によって、せん断補強筋の規格降伏点以上の重ね継手強度を確保できる。これらより、本工法によると、鉄筋工事の現場施工の省力化が図れる。

本委員会は、一般社団法人建築構造技術支援機構「建築構造技術検証要綱」で定め  
た技術基準と照らし合わせ、下記の通り、本技術は妥当なものであると判断した。

2011 年 8 月 5 日

一般社団法人  
建築構造技術支援機構  
建築構造技術審議委員会  
委員長 窪田 敏行

### 記

評価方法： 申込者提出の下記資料によって、技術評価を行った。

SK-DC Joint 工法 説明資料 I 編 溶接鉄筋ユニット溶接点強度の検証試験、  
II 編 直交筋付き重ね継手実験、III 編 基礎梁実験

この資料には、本工法の目標性能達成の妥当性を確認した実験資料がまとめられている。この資料のほかに、SK-DC Joint 工法 設計指針、標準製造要領書および専門部会資料が提出されている。

評価内容： 本工法による直交筋付き重ね継手は、せん断補強筋の規格降伏点以上の強度を有し、本工法設計指針に従って設計された鉄筋コンクリート基礎梁は、長期荷重時に使用上支障を来たすひび割れ、ならびに短期荷重時に修復性を損なうひび割れを起さず、本工法設計指針で定める終局耐力を有すると判断される。